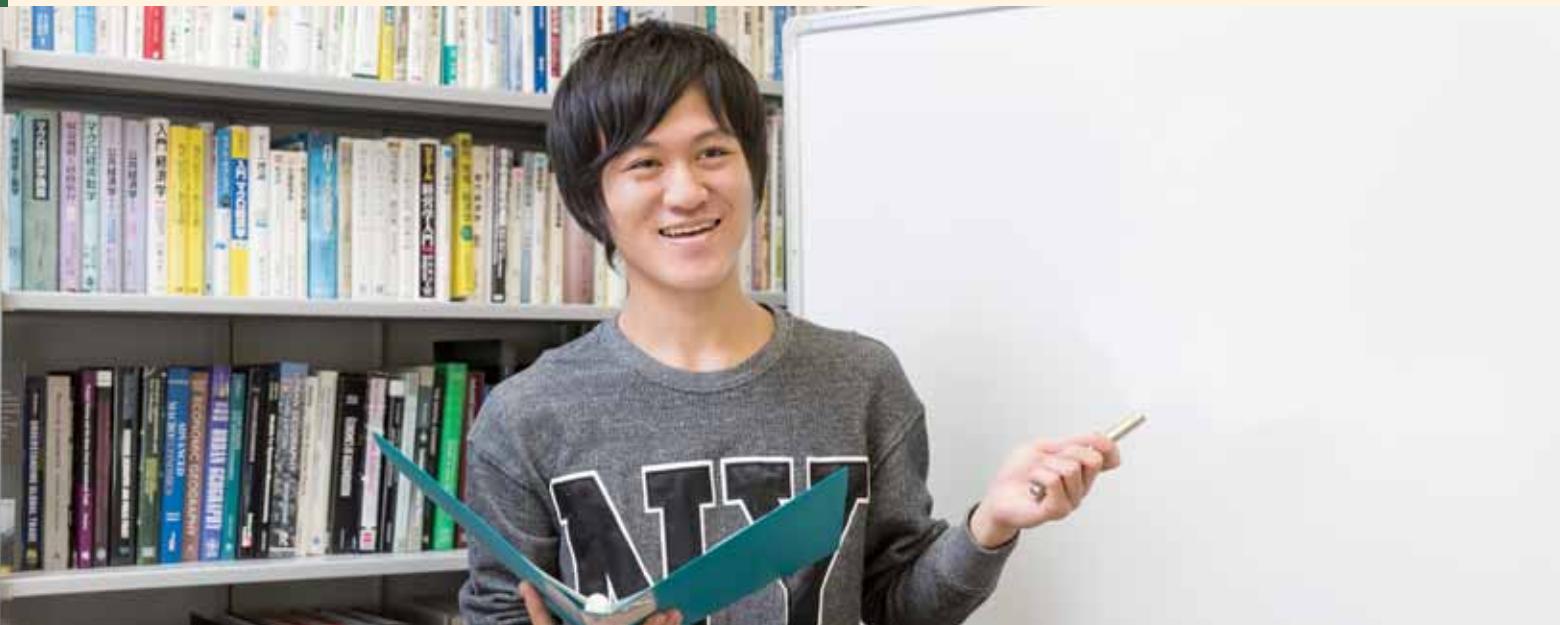


経営情報学部

School of Management and Information



沿革

1987年(昭和62年)	静岡県立大学開学 経営情報学部設置
1989年(平成元年)	静岡市谷田に校舎完成
1991年(平成3年)	第二代学部長、野田孜教授
1993年(平成5年)	第三代学部長、中村義作教授
1994年(平成6年)	ウインドウズ・パソコン82台を導入
1995年(平成7年)	静岡大学人文学部、教育学部との単位互換協定締結 教養科の廃止と新カリキュラムへの移行に伴い、教養科から6人の教員を迎えた 新しい教育課程(カリキュラム)では、合計134単位が卒業要件となった
1996年(平成8年)	第四代学部長、大坪檀教授
1998年(平成10年)	第五代学部長、宮下淳教授
2000年(平成12年)	第六代学部長、小林みどり教授
2003年(平成15年)	同窓会「経情会」設立
2004年(平成16年)	第七代学部長、勝矢光昭教授 経営情報学部棟に遠隔講義システムを整備
2005年(平成17年)	教職課程(高等学校「数学」「商業」「情報」)を設置
2006年(平成18年)	第八代学部長、川瀬光義教授
2007年(平成19年)	静岡県公立大学法人 静岡県立大学が発足 第九代学部長、小山秀夫教授
2010年(平成22年)	第十代学部長、鈴木直義教授
2013年(平成25年)	第十一代学部長、松浦博教授
2015年(平成27年)	平成28年度一般前期入試で英語・数学から事前に選択する個別試験を導入し実施 経営コース、総合政策コース、情報コースからなるコース制を導入

教育理念

我が国が直面する経済・社会のグローバル化、少子高齢化など、国内外からの厳しい環境変化に対応しつつ、新たな発展をしていくため、「経営」「総合政策」「情報」の3分野の融合と専門性により、現代社会の各分野でイノベーションを担う問題解決型の人材を育成します。

教育方針

教育課程を学士力すなわち学生が身につけるべき能力という観点で編成します。「学部基礎科目」において「経営」「総合政策」「情報」「数理」「英語」についての基礎的な知識や技術について学びます。「専門教育科目」における「経営科目」は経営能力、「総合政策科目」は政策企画力、「情報科目」は情報学的解決能力、「数理科目」は数理的分析力を身に付けることを目的とします。3・4年次はゼミに所属して、「演習」等によって特定領域の研究を深め、学修の成果を卒業研究として完成させます。本学部は「経営」「総合政策」「情報」という実社会では関連は深いものの、学問的には異なる分野を同時に学び、異分野の融合の難しさを体験するとともに、融合による創造力や強みを体験することによって、日本社会が求めている変革を成し遂げる人材を育成します。

具体的な人材育成像は、

- 1 ビジネスパーソン、組織マネージャ、アントレプレナー(起業家)など、企業におけるビジネス・リーダーや、新規事業を創出する起業家を目指す人材
- 2 自治体・官公庁の職員を目指す人材
- 3 公営企業の職員やNPOなど非営利団体の経営スタッフを目指す人材
- 4 医療・介護の政策・経営を学び、医療機関や介護施設の経営者を目指す人材
- 5 ITシステムデザイナーなど、あらゆる組織のIT関係のマネージャ、あるいはIT企業内の専門家を目指す人材
- 6 ITストラテジストなど、あらゆる組織の情報責任者や、ビジネスにおけるIT化戦略の担当者を目指す人材

経営情報学部 10年の歩み

◆◆ 教育・研究の特色 ◆◆

現在、我が国は経済・社会のグローバル化、少子高齢化など、国内外からの厳しい環境変化に見舞われ、多くの課題に直面しています。そうした変化に対応して新たな発展をしていくために、現代社会の各分野でイノベーション（革新）を起こすことが求められています。本学部は、経営・総合政策・情報の3分野における専門的知識と、各分野の知識を融合的に活用する能力をもち、社会においてイノベーションを担う問題解決型の人材、すなわち複雑化した現代社会のさまざまな分野で活躍でき、また将来の時代の変化に柔軟に対応していくことのできる人材を育成します。この目的の達成のため、経営情報学部は時代の変化に応じた教育課程の見直しとともに、改革を実施し続けています。

少人数教育による実践的な学びと融合的能力の強化

平成24年度にカリキュラム改正を実施し、学生が4年間を通じて、少人数のもとで専門的な教育を受けられるようにするために、従来から設置している基礎演習に加えて、研究融合演習を整備しました。これによって、3年次になってからも所属するゼミの教員以外の指導を可能とし、複数分野にまたがる融合的な問題解決能力を身に付けさせる教育を目指しました。また、1年次に4年間の勉学の基礎的となるスキルを付与するための新科目「スタディスキルズ」を設置し、学生に経営情報学部での学びの目的と方法を深く認識させることとしました。さらに、総合政策分野の新規科目として総合政策概論I・IIおよび基礎経済学、法律学概論を学部基礎科目（必修）として設置し、基礎力の向上を図りました。加えて、専門教育科目として日本国憲法、民法各論を設置し、公務等への就職や資格取得に対応できるように整備しました。



文系、理系の融合教育に合致した入試の導入

文系、理系の垣根を越えた教育方針に合致した入学生を受け入れるため、一般前期入試（定員60）において平成21年度入試から実施の小論文に代えて、平成28年度入試から英語と数学（数Ⅲまで）から、事前に選択する方式の個別試験を導入しました。志願倍率は4.4となり、従来の2倍程度から大幅に増えました。なお、推薦入試（定員30）については従来から、面接に加えて英語及び数理的能力（数I・Aの範囲）の適性検査を実施しています。



学生の専門的能力の強化のために

学生に、より高度な専門性を身につけさせるため、平成27年度から、経営・総合政策・情報の三つのコースを導入しました。2年次よりコースを選択し、コース指定科目と選択科目を設定し、学生がより専門性を高めることができるような仕組みとしました。なお、所属ゼミや卒業研究についても選択したコースに依存するこ



とは無く、自由に配属できるようにしておらず、本学部の特長である学びの柔軟性を損なわないように配慮しています。



教職課程の設置と発展

経営情報学部では、平成17年4月に教職課程（高等学校）「数学・商業・情報」を設置しました。学生は3種類の高等学校教諭一種免許状をすべて取得することも可能であり、全国の経営関連学部、情報関連学部を含めて、他に例を見ない特長です。教職課程卒業者は2015年3月卒業までの過去5年では、教職課程卒業36名、大学院教職専修修了5名です。教職への就職状況は過去5年では非常勤講師を含めて教職に就職10名のほか、県教員合格者4名などと着実に成果を上げています。また、本学部の教職課程について、受験生の認知も広がりつつある状況です。

デフレ不況の中でも高い就職率

本学部の就職率は、毎年ほぼ100%を達成しており、本学部卒業生が社会から高い評価を得ていることの証左です。週刊東洋経済「本当に強い大学」で2012-2014年の3年間就職ランキング（経済・経営・商学系）で全国2位と紹介されました。また、サンデー毎日の実就職率ランキング（商・経営系）で2014年5位、2015年1位、2016年3位と紹介されました。

本学部の学生は3年次以降、ゼミに所属し、指導教員の支援のもと、学生が主体となって発表、討議、研究を行います。特に、地域に出て学び調査を行うフィールドワークや、企業・自治体・他大学などと連携した活動、研究成果の学会発表などが活発に行われます。その成果を、4年次の最後に卒業論文としてまとめます。次に示すのは近年の卒業論文のテーマ例です。

【経営分野】「小規模飲食店のマーケティング戦略」「グローバル企業への課税問題」「国際分業の現状と課題に関する研究」など

【総合政策分野】「静岡空港の現状と課題」「自治体が企業誘致に成功するためには」「医療・介護保障制度の研究」など

【情報分野】「Twitterのトレンド分析」「留学生発語データのアクセント自動推定」「美術館向けアプリケーションの開発と評価」など

これらの学びを活かし、学生は、金融・証券・保険・情報通信サービス、製造・卸売・小売・公務員・医療・福祉・広告・出版・建設・不動産・エネルギー・運輸・物流、非営利団体など、社会の様々な業種で活躍しています。

第2章 教育・研究30年の歩み

◇◇ 経営情報学部の活動録 ◇◇

総務大臣よりu-Japan地域活性化

2008 部門賞を受賞



鈴木直義教授のゼミ(数学研究室)の学生が、NPO法人ふじのくに情報ネットワーク機構(FINO)と協力して開発・運用した「全国少年少女草サッカー大会運営支援システム」の事例が、ユビキタスネット社会における活用モデルとして特に優れた事例であると認められ、総務省の「u-Japan大賞 地域活性化部門賞」に選考されました。

全国少年少女草サッカー大会は、毎年夏、静岡を中心に男子256チーム、女子32チームが集い、男子は5日間、女子は3日間に渡り戦いを繰り広げ、1位から最下位まで決定するものです。全国少年少女草サッカー大会運営支援システムは、参加申込から選手登録などをインターネットで受け付け、大会期間中においては、試合結果を迅速に集計し情報発信するシステムです。本システムは、数学研究室の学生により設計・構築・運用されました。

SOHOしづおかビジネスプランコンテスト

2008 「最優秀賞」を受賞し、製品化



ふりーらフルーラは、「静岡茶」などの4種類があり、ヨーグルトやアイスクリームなどにふりかけると、とても美味しく食べることができます。この製品は、2008年2月に開催された第6回SOHOしづおかビジネスプランコンテスト学生部門で、最優秀賞を受賞したビジネスプラン「静岡の特産物を使った新しいお土産ふりかけビジネス」をベースに、静岡県商工会連合会と農業、製造業、飲食業、マーケティング専門家らでつくる「しづおかうまいもの創生事業実行委員会(委員長:岩崎邦彦 経営情報学部教授)」が製品化を行ったものです。

新入生課外交流ツアーを実施

2009



学生同士の交流が小さな単位にとどまっていることを懸念しつつ、上級生・教員との早期のコミュニケーションの確立を期待して前年度の試行を踏まえて、国立中央青少年交流の家において正式に実施しました。初日に交流ゲーム、昼食作り、上級生との談話を実施し、翌日はスポーツ大会でサッカー、バレーボールなどで汗を流しました。このイベントは形を変えながらスタートアップ演習の科目に引き継がれています。

電子掲示板設置とカレッジホールの整備

2014



防災対策を推進し、学生等の安心安全の確保のため臨時・特別的措置として教職員の給与削減を行い、それを原資とした地震対策事業を実施しました。その中で地震・災害等の情報を表示する電子掲示板の設置を各棟に行いました。設置ノウハウやコンテンツ

作成には渡邊准教授が中心となり貢献しています。また、カレッジホールに学生が自習するためのパソコン・プリンタ等の整備を継続的に実施しています。

2015 静岡県立大学発ベンチャーの称号授与

国保祥子講師(組織マネジメント、ソーシャル・ビジネス:経営学博士)が、人材教育プログラムの開発・提供を行う大学発ベンチャー企業を設立しました。国保講師のこれまでの研究成果の社会還元と実践の場として、育児休業を能力開発期間に転換する教育プログラムの開発・提供、コンサルティング業務と研修業務等を行っています。本学としては4件目の大学発ベンチャー企業です。



生活の中の安全を考えてみよう

2015 ~高校生のためのリスク学入門~

高校生を対象にしたリスク学のセミナーを、経営情報学部・上野雄史講師と食品栄養科学部内藤博敬助教の合同で実施しました。前半では専門家からの講義を受講し、リスクに関する科学的な理解を深めました。後半では、水道汚染の事例を取り上げ、高校生たちに実社会で起こっていることを疑似体験してもらいました。高校生達には、役割・立場の異なるグループに分かれもらい、起きた問題の対応方法について、与えられた立場によって出される結論が異なりうることを学び、全体討論の中では話し合うことの重要性を認識してもらいました。



国際ビジネスインターナショナル・学術論文大会にて

2016 「日本語部門最優秀賞」及び「総合5位」を受賞

笠原民子講師のゼミ(国際経営研究室)の学生が、明治大学にて開催された第6回国際ビジネスインターナショナル(通称IBインターナショナル)に参加しました。本学術論文大会は、国際経営を専攻する有志の大学により運営されており、合計16大学28チームが参加しました。笠原ゼミは、日本語論文部門18チーム中、慶應大学、明治大学、立教大学、南山大学等のゼミを抑えて、日本語部門最優秀賞を受賞しました。併せて、英語部門及び日本語部門総合で、「5位」を受賞しました。受賞論文タイトルは、「トップ・マネジメント・チームのダイバーシティと企業業績との関係性-CEOパワーの調整効果の検証-」です。今後の活躍が期待されます。



◆◆ 卒業生よりメッセージ ◆◆

株式会社シャンソン化粧品
本社営業部
1996年卒業

稻葉 栄史 さん



時代の変化に合わせた新たな学問を学ぶ場所

現在は化粧品メーカーの情報システム部門に属し、経営分析や事務処理のIT化を中心に、社内ERP構築の仕事に携わっています。在学中はコンピューター技術の習得を中心に研究室でパソコンに向かう日々が多かったのですが、単なるプログラマーとしてではなく、経営学や心理学、そして簿記の知識を得ることでIT技術をどのように応用すれば経営に役立つかを考えられるようになりました。経営情報学という開学当時としては先進的な分野に取り組んだ静岡県立大学が、今後も時代の変化に合わせた新たな学問を学ぶ場所を提供し続けることを期待しています。また、第3代経情会(同窓会)長を2007年から務めています。

株式会社しづおかオンライン
Womo事業部 事業推進課
2009年卒業

風間 千裕 さん



多くのひと・ことに触れ、可能性を広げる

大学で学んだマーケティングがきっかけで「静岡の魅力をもっと多くの人に伝えたい」という想いが強くなり、現在は静岡県内の女性向けフリーマガジン『womo』の編集長として企画やWEB・イベント運営に携わっています。岩崎ゼミの活動で、新しいアイディアをどう実現していくかという課題に対して実践的に取り組んだことが、社会人になり非常に役立ちました。「自分はこうだ」と決めつけず、より多くのひと・ことに触れ、可能性を広げていってください。

静岡県庁
地域外交局地域外交課
2012年卒業

鈴木 千世 さん



自分の道を切り拓く場所

静岡県立大学の創立30周年、おめでとうございます。私は、経営・総合政策・情報分野の知識習得に加え、他学部の講義を受けたり、複数の資格を取得したりして、実社会で活きる力を身につけることができました。特に、ゼミ活動で地域経済の活性化について研究を深めたことは、今の仕事の基礎となっています。現在は、県職員として、地域レベルでの外交の推進に従事しています。在学中に培った探求心や人脈は、必ずキャリアに活きてきます。今後も、県立大学が学生にとって、誇りある研究機関であり、自分の道を切り拓く場所であることを期待します。それが地域全体を牽引する活力になると考えます。

浜松ホトニクス株式会社
レーザー営業推進G
2016年卒業

望月 崇廣 さん



現場の変化に合わせた新しいことを学ぶ場

「経営情報学ってなに?」社会人になってよく聞かれます。恥ずかしながら、卒業した私自身明確な答えがわかつていません。しかし、営業として働いて数ヶ月、経営情報はビジネスの世界の基礎をなしていることを実感しています。学んできたことを「ビジネスの場」で生かし、更なる知見へと発展させていくことのできるのは経営情報学部ならではのことでは無いでしょうか。これからも、現場の変化に合わせた新しいことを学ぶ場として、経営情報学部に期待しております。

◆◆ これからの未来にむけて ◆◆

本学部の源流は昭和60年に学部長予定者に林周二東大教授が選任され、私立大学の経営情報学部・同学科について綿密な調査を進めたことに遡ります。同時に、碩学4名の意見を参考にして、新時代に求められる教育体系構想(林メモ)が提示されました。林メモによれば、それまでの経営情報学部・学科は既存の経営学部や商学部の枠にとらわれすぎていって、積極的な意義付けが足りないとされました。学部発足時には経営・会計(Administration & Accounting)、数理・モデル(Mathematics & Model-building)、情報処理・情報通信(Computer & Communication)を核とする多分野融合教育や組織を分離させないことを学部理念とし、諸先輩方の努力によって現在に至るまでその理念を継承しています。次の30年に向けて、この理念を守りながら時代に適応し発展させていきます。

経営情報学部長 松浦 博



看護学部

School of Nursing



沿革

- 1997年(平成9年) 看護学部看護学科の設置(谷田キャンパス)
(第1期生61名入学)
- 2001年(平成13年) 看護学部第1期生56名卒業、社会人特別選抜
(2名)、編入学生(5名)の受け入れ開始、大学院看護学研究科(修士課程)の設置
- 2003年(平成15年) 看護学部同窓会の設置
- 2004年(平成16年) 静岡県立静岡がんセンターとの連携大学院の開始
- 2005年(平成17年) 編入学生定員を10名に増員(定員65名、うち編入学生10名)
- 2006年(平成18年) タイ国コンケン大学看護学部と学部間国際交流協定の締結
- 2007年(平成19年) 設置者が静岡県から静岡県公立大学法人へ移管
(大学法人化)
- 2010年(平成22年) 助産師教育課程を看護学部から大学院看護学研究科へ移行
- 2014年(平成26年) 看護学部入学定員を130名に増員(うち編入学生10名)
- 2015年(平成27年) 小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成、看護学部および看護学研究科の主な教育・研究拠点を小鹿キャンパスに移転し、2つのキャンパスに拡充

教育理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を養成します。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成します。

教育方針

【ディプロマポリシー(学位授与の方針)】

必要単位を修得し、次のような者に学位を授与します。人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成します。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成します。

【カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)】

- 1.生命的尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
- 2.根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
- 3.看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
- 4.対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
- 5.保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
- 6.看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
- 7.国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

【アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)】

保健医療福祉を取り巻く状況の変化に的確に対応し、人々の生活の質向上を図るために、看護職者には、高度な専門知識・技術と豊かな教養が求められる。さらに、人々の生活上の様々な課題に対応するために他職種と連携する力が必要とされる。そこで、本学部では、実践と研究を結びつけながら看護の専門性を追求していくことのできる看護職者の育成をめざし、次のような人材を求める。

- もののことを深く科学的に探求するひと
- 豊かな人間性を持ち真摯な態度で「ひと」に向かえるひと
- 夢の実現に向けて主体的に道を切り開いてゆくひと

◇◇ 看護学部の活動録 ◇◇

2006 タイ国コンケン大学看護学部と 学部間国際交流協定の締結

2006年にタイ王国コンケン大学看護学部との間に学部間協定が締結され、以降、教員が相互に訪問し交流を深めてきました。2014年には学部生の交換留学事業が合意され、2015年には2名、2016年には4名のコンケン大学看護学部生を受け入れました。2017年には当学部4年生を対象に、コンケン大学看護学部で国際保健・看護実習を行う予定です。これらのプログラムをとおして、国際的視野をもち国際社会の中で協働できる看護師・保健師の人材育成を行っています。

2012 ひよこママのサプリ講座

母性看護学では、4年生対象の必修科目である「発展看護実習」において、5施設と1団体で実習を行っています。その中の1団体である「NPO法人バディプロジェクト」は、『ママからママへの子育て支援』を合言葉にマタニティ期から赤ちゃん期の母親を支援する子育て支援団体で、毎年、静岡県立大学看護学部と共に「ひよこママのサプリ講座」を開催しています。「ひよこママのサプリ講座」は、産後2~5ヶ月の初めて子育てをするお母様方を対象とした子育て支援講座で、初めての育児に疲労感や孤立しがちな母親たちのリフレッシュと仲間づくりを目的としています。内容は、毎年趣向を凝らしていますが、28年度は、ボールエクササイズやおもちゃの手作り、タッピングタッチとお産の語りでつながりを持つというもので、学生は、企画・進行・評価の一連の過程に参加し、地域での子育て支援の実際を学んでいます。講座では、学生も一緒に入って、出産後施設を退院したお母様方の生の声を聴き、姿を見て、知り得なかった悩みや不安などを学び、今後のケアの方向性や地域支援の重要性を考えるきっかけづくりになっています。



2012 シミュレーション教育

医療安全の側面から、実際の患者には実施できない侵襲性の高い看護技術を学ぶために、高機能シミュレータを使用した教育を実施しています。2015年4月には小鹿キャンパスにシミュレーションセンターを開設し、本格的な模擬的環境を整えることが可能となりました。臨床現場で起こり得るさまざまなシナリオの下、学生は、自ら考え判断して実践するといった能動的な学習に取り組んでいます。



2016 市町保健師の現任教育

公衆衛生看護学実習でお世話になっている静岡市や富士市、富士宮市の保健師研修会に教員が出向き、協力させていただいている。これらの市町には卒業生も多く、新任期保健師への現任教育にもなっています。



看護学部10年の歩み

少子・高齢化社会の進行、人々の健康志向の高まり、医療の高度化と専門化、生命倫理への課題、大規模災害といった保健医療を取り巻く状況の変化とともに、看護職の必要性・重要性はますます高まっています。本学部では、2014年に看護学部の入学定員をこれまでの65名から130名に増員し、より質の高い教育を行うため、小鹿キャンパスに新看護学部棟を増設しました。2015年4月から、看護の基礎となる科目を谷田キャンパスで学び、看護の専門科目を小鹿キャンパスで学んでいます。

現在は、入学定員が増員する中、従来どおりの教育の質を維持し、さらに向上させるべく、新しいカリキュラムに基づいて、教育環境のソフト面を整えています。また、多くの学生が実習するための実習施設の確保にも尽力しています。静岡県内の多くの医療・保健・福祉関連施設が、新たに実習を受け入れ、本学部の教育へのご協力を表明してくださっています。こうした多くの皆様のご支援をいただきながら、静岡県の医療にこれまで以上に貢献できる人材を育成できる環境を整えています。

助産師教育課程の看護学研究科

2010　への移行

近年の保健医療分野の変化に伴い、専門性の高い知識と技術を持った看護職が一層求められるようになったことに応えて、助産師教育課程を看護学部から大学院看護学研究科修士課程へと移行しました。それにより、女性と共にある専門職として、自律して妊産褥婦の継続ケアが行える助産師、チーム医療の一員として助産師独自の機能を果たせる助産師にとどまらず、助産分野のリーダーとして、新しい助産ケアの開発につながる研究的思考をもつ助産師、助産師相互の教育に貢献できる助産師の育成が可能となりました。

2011 看護教育拡充

静岡県立大学短期大学部看護学科の閉学科に伴い、2011年度より看護教育拡充専門委員会が作られ、「確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材」の養成に向けた計画の立案および実行がなされました。看護学部の入学定員55人(編入10人)総定員240人、短期大学看護学科の入学定員80人、総定員240人をもとに入学定員120人／年(編入学25人、3年次)という学生数、谷田および小鹿の2キャンパス制で看護学教育の中心を小鹿キャンパスに移すことが決められ、定員増は2014年度から開始され、2キャンパス制は2015年度から実施されています。

2015 2キャンパス制

看護教育拡充計画に基づき、定員増および最新の看護教育への対応のために小鹿キャンパスに新看護学部棟が建てられることとなりました。2012年に基本設計がなされ、2013年9月に工事着手、2015年4月に完成しました。地上4階建てで、看護実習室、セミナー室、コンピュータ実習室、院生室と教員室等が入っています。これに伴い、実習用ベッドや備品が谷田および短期大学部より移設されました。なお、総合大学としての基盤を有する県立大学のメリットを学生が享受できるよう、2キャンパスでの教育体制を確保するために、谷田の看護学部棟には学部基礎科目担当の教員が残ることなり、1、2年生の学生のためのロッカー室も残りました。また、2015年10月から、谷田-小鹿間のスクールバスとしてマイクロバスが導入されました。



◆◆ 卒業生よりメッセージ ◆◆

静岡県立大学
看護学部
2001年卒業

鈴木 恵 さん



出会いに感謝

私は看護学部1期生として入学しました。1期生というのは、先輩から後輩へと受け継がれる過去問やアドバイスがなく、期末試験や演習、実習を乗り越えられるのかとても不安に思っていました。しかし、友人同士で試験対策を練ったり、実習で落ち込んだ時には励まし合ったりして、この環境が私と友人達との絆を強くしてくれました。卒業して16年が経ちますが、その絆は今も変わらず、宝物のような存在です。友人達との出会いの機会を与えてくれた県立大学に感謝します。

日本医科大学武蔵小杉病院
内科
2015年卒業

大高 彩 さん



様々な人と交流できる機会を大事に

急性期病院の総合内科病棟で勤務しています。地域の中核病院としての役割も考えた仕事は幅も広く、総合内科は分野も様々ですので学ぶことの多い現場です。患者さんはもちろん、スタッフ同士、多職種との連携で、コミュニケーションの重要性を実感しました。学生時代から、様々な方と関わることで自然とコミュニケーションスキルは身につくと思うので、積極的に自分と違う環境や経験をしてきた人とも交流できる機会を大事にしてください。

独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊(モロッコ)
2011年卒業

山口 璃瑠 さん



たくさんの出会いが、今の自分に大きく影響

在学中から国際協力に興味があり、総合病院で助産師として経験を積んだ後、モロッコで2年間ボランティア活動をしていました。中都市県の保健支局に配属され、医療施設のサービス改善のために会議や研修会・ワークショップの実施、巡回指導を行っていました。在学中の看護学部での学びは勿論、剣祭実行委員会やチア部での経験や他学部の学生との出会いが、今の自分に大きく影響し支えられています。今後も知識や技術を補いながら、途上国の保健向上に貢献したいと思います。

静岡県賀茂健康福祉センター
松崎保健支援室
2015年卒業

加藤 由佳 さん



熱心な先生方や仲間に出会えて感謝

行政保健師として、精神保健、母子保健、難病、感染症に関連した個別の相談業務や、精神障がいをもつ方を対象とした保健所デイケアなどに従事しています。在学中はサークルやボランティア活動に力を注ぎ、在日外国人のことや働きたくても働き続けられない事情がある方など、地域にはいろいろな人が暮らしているということを学びました。実習や卒業研究では興味をもったテーマに対してとことん付き合ってくださる先生方や仲間に出会えて、とても感謝しております。

◆◆ これからの未来にむけて ◆◆

看護学部はこの数年は、看護教育拡充計画のために翻弄された、いや未だに翻弄されていると言って良いかも知れない。極めて少人数に対して濃い看護学教育をしてきた先生方には、120人という学生数はかなり抵抗があったであろう。この120人教育の結果はまだ卒業生が出ていない(2018年3月に最初の卒業生が)ので判っていない。さらに全国的な看護学部の乱立は、看護教員の不足、実習先確保の困難さを生じている。

そのような中で、国際保健・看護実習が2017年よりタイ・コンケン大学の協力のもと実施されることは国際化の進む現在、非常に喜ばしいことと考える。海外での学習は今の日本を見つめ直し、考えるのに良い機会となるであろう。

静岡県立大学が創立30周年を迎えるということは看護学部設置から20年となり、他学部に比べると若く、それゆえ本学部の卒業の教員がまだ少ないということがある。この問題の解決が看護学部の未来を決定するものと思われる。

看護学部長 金澤 寛明



短期大学部

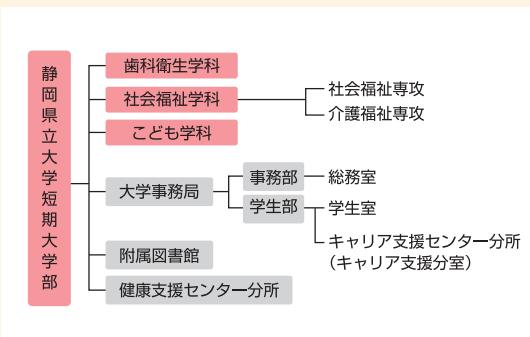
University of Shizuoka,Junior Collage



沿革

1951年(昭和26年)	静岡女子短期大学の設置が認可される 静岡市北安東458において開学する	2001年(平成13年)	短期大学部浜松校文化教養学科及び食物栄養学科が廃学科となり浜松校は閉校となる
1966年(昭和41年)	浜松教場を開設する	2004年(平成16年)	第一看護学科及び第二看護学科の収容定員に係る学則の変更が承認される
1968年(昭和43年)	静岡市北安東458から浜松市布橋3丁目2番3号への設置位置の変更が認可される	2005年(平成17年)	歯科衛生学科の修業年限(3年制)の変更が承認される
1971年(昭和46年)	食物栄養学科の設置が認可される	2006年(平成18年)	県議会2月定例会において、公立大学法人定款案及び評価委員会設置条例案が承認される
1975年(昭和50年)	第一看護学科、第二看護学科の設置が認可される 看護婦学校の指定を受ける	2007年(平成19年)	第二看護学科が廃学科となる 静岡県公立大学法人が設置・運営する大学となる 第一看護学科を看護学科と改める
1986年(昭和61年)	静岡県立大学短期大学部を浜松市布橋3丁目2番3号に設置し、昭和62年4月1日に開設することが許可される	2015年(平成27年)	こども学科の設置が認可される
1987年(昭和62年)	第一看護学科及び第二看護学科が昭和62年4月1日付けで看護婦学校の指定を受ける 静岡県立大学短期大学部が開学する	2016年(平成28年)	こども学科が新設される 看護学科が廃学科となる
1989年(平成元年)	静岡女子短期大学の廃止が認可される		
1990年(平成2年)	看護婦学校の学則(教育課程)の変更認可を受ける		
1996年(平成8年)	第一看護学科及び第二看護学科の収容定員に係る学則の変更が承認される 歯科衛生学科及び社会福祉学科の設置が認可される		
1997年(平成9年)	歯科衛生学科及び社会福祉学科を新設するとともに、第一看護学科及び第二看護学科を浜松から移設し、静岡校が開校する		
2000年(平成12年)	短期大学部本部を浜松市布橋から静岡市小鹿に変更する		

■現在の組織(平成28年10月)



❖ 教育の目的 ❖

本学は、一般教育を重んじ、これと密接な関連を保ちつつ、深く専門の学芸を教授研究し、実際的な応用能力の展開を図り、時代の要請と地域社会の要望にこたえる有為な人材を育成することを目的とします。

[各学科の目的]

- (1)歯科衛生学科は、高度化する歯科保健医療に対応した専門的知識と技術を有し、他職種と協働して、歯科衛生の方法を用いて人々の生涯にわたる健康づくりに貢献できる人間性豊かな歯科衛生士を養成します。
- (2)社会福祉学科は、多様化する福祉ニーズに対応した専門的知識と技術を有し、福祉サービスを必要とする人々の自立と自己実現を支援できる感性豊かな社会福祉専門職を養成します。
 - ア 社会福祉専攻では、保育ニーズに対応した相談援助のできる保育士と、専門的知識と技術とを兼ね備えた社会福祉士を養成します。
 - イ 介護福祉専攻では、高齢者や心身に障害を抱える人々が自立した生活ができるように、日常生活を援助し必要な助言ができる介護福祉士を養成します。
- (3)こども学科は、子どもの健やかな育ちを保障するための高度な専門知識と実践能力に加え、教養及び豊かな人間性を持ち自ら学び続けることのできる保育者を養成します。
- (4)一般教育においては、主体的判断力を持った自立的個人を養成するために、論理的思考能力・科学的観察力・批判的精神を培います。



短期大学部の歩み

短期大学部の歩みは、女子教育の機会を拡充することを目指して、昭和26年に開学した静岡女子短期大学に始まります。静岡市から浜松市に移転し、昭和62年には、静岡県立大学短期大学部として、文化教養学科、食物栄養学科、第一看護学科、第二看護学科の四学科に改変されました。発足当時の校は「深い専門性と広い教養」は、現在でも本学の教育研究活動の指針であり続けています。

医学医術の進歩や社会構造の変化に伴い、高齢者に対する看護、介護を中心とする保健・医療・福祉サービスの需要が急速に増大し、それらの社会的要請に応えるべく人材の育成を目指し、平成9年に看護学科を移設し、新設の歯科衛生学科、社会福祉学科とともに医療福祉に特化した短期大学部静岡校として新たな歩みを始めました。平成13年には、浜松に残った二学科を基礎にして静岡文化芸術大学が開学し、浜松校は閉校となりました。

静岡校開設以来の短期大学部20年の歩みは、時代の要請と地域の要望とに機敏に応えたものでした。新たな10年を迎える平成28年、こども学科の新設、看護学科の県立大学看護学部との統合を行いましたが、これらもこの20年の流れに従ったものです。

静岡女子短期大学時代、看護二学科の新設は、当初学生による反対運動がありました。学科の性格が校是に悖戾する危惧があったからであろうと思われます。それが杞憂あるいは誤解であったか否かは措くとして、短期大学部看護学科は県内のみならず全国に看護士、看護教員を輩出し、

県立大学看護学部の礎を築いたように県内の医療に大きな役割を果たし、浜松校と同様新たな発展を成し遂げたのもまた事実です。短期大学部の三学科も今後これらの先達の歩んだ道に自らを誇うであろうと思われます。しかし、それは単なる組織改革のみを意味してはおりません。

校地、校舎は開学時の姿をとどめていません。それのみならず、叙上の組織改編以外に第二看護学科の廃止、歯科衛生学科の三年制移行などめまぐるしく姿を変えてきました。そのような中で唯一変わらなかったものは、戴き続けてきた教養主義の理念でした。変わり続ける社会の中にそれをどのように実現させていくかがこれから10年の課題であります。

すなわち、複雑かつ急激な変化を遂げる社会において、それに対応した新たな教養観と、いかに社会が変わろうとも普遍的な教養観との両方を確立させ、建学の精神を継承発展させていくために不斷の努力を重ねる責務があります。教育は理念の実現を以て第一義となす。本学における人材の育成とは単に職業人を育てるではありません。理念の下、主体的な判断力を備えた、自由人たる市民として成長させることであります。二度にわたって受けた大学基準協会による認証評価などの外部評価は、それを再確認する好機であったと思います。

❖ 短期大学部のこの10年および将来 ❖

現在の短期大学部は平成9年の静岡県立大学短期大学部静岡校開校以来、保健医療福祉系の公立短期大学として、地域のニーズに応えてきました。そしてこの10年間で、看護学科の廃学科とこども学科の新設という大きな組織変革を行いました。これは、短期大学部に対する各方面からの要望や法人の将来計画の一環であります。その間に、大学認証評価を2回受け、今後の大学に求められる課題として、短期大学部も自らの内部質保証の実質化が喫緊の課題としてうかびあがりました。現状の改善、これは言うまでもなく継続して行っていくべき事項ではありますが、他方、短期大学部の将来を具体的に検討する時期にも来ているのではないかと考えます。すなわち、今後の10年は、短期大学である事を継続していくのかどうか、議論を重ね意思決定を行っていく年月になるのではないかと思います。

さて、10年後は、どのような形で次の10年間の計画を策定していることでしょうか。

短期大学部部長 有泉 祐吾



